

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 高山市立北稜中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒506-1317
岐阜県高山市上宝町本郷652番地

E-mail hokuryou@edu.city.takayama.gifu.jp
Website http://www.city.takayama.lg.jp/kurashi/

幼児児童生徒数 男子 26名 女子 42名 合計 68名
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自信と誇り」を学校理念として、ESDを郷土に根付いた教育で、地域の貴重な自然とそこに生きる人々の暮らしについて理解する学習に取り組んでくるとともに、防災教育に力を入れて命を守るための知識や行動力を身に付けるように取り組んできた。

具体的には地域理解、防災教育を柱に①親子登山体験、ふるさと写真の撮影と発信を通じた郷土学習、②自然災害に関する学習や訓練活動を行った。

① 親子登山体験、ふるさと写真の撮影を通じた郷土学習に係わる活動

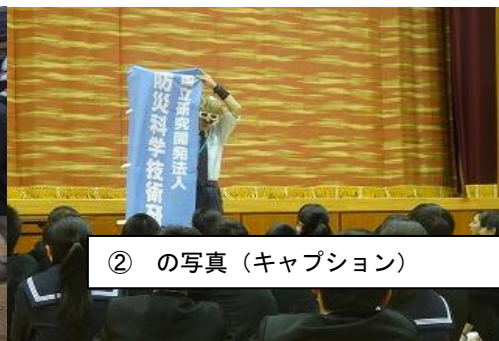
8月20～21日の一泊で、双六岳の親子清掃登山(3年生、夏休み、PTA行事)を行った。学校だけでなく親子で自分たちの住む身近にある有名な山に登ることで、親子の絆を深め、自然のすばらしさを体験した。また、登山道の清掃を行うことで、自然を守ろうとする気持ちと態度の育成をめざした。また、ふるさと写真の撮影と発信活動を行い、見つめようふるさと、伝えよう私の好きな風景と題して、季節ごとに地域の自然や暮らしを撮影して学校に掲示した。また、カレンダーを作成して地域に配布した。

② 自然災害に関する学習と命を守る訓練活動

中学生のみの命を守る訓練（５月、１１月、１月）に加え、１１月には、地域の保育園、小学校と合同の訓練を行った。中学生が引き渡しのための名簿作成をするなど、災害時に備えて自分たちにできることを実践的に訓練した。また、家族防災ウィーク等の実施（１０月）では防災アンケートをもとに家族で話し合い、災害に備えて準備しておく品物を確認したり、災害が起きた場合にどのように行動するとよいかを話し合ったりした。さらに、防災講演会（１０月、２月）を行い、砂防や火山、津波についての講演会を通して、正しい知識を身につけるとともに、命の大切さと命を守るための方法を学んだ。



保小中合同避難訓練



砂防講演会のようす

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、「地域理解プロジェクト」および「防災教育プロジェクト」を位置付けている。地域の自然や人々の暮らしについて理解したり、自然災害に対する知識や行動力を身に付けたりして、自然と共存し持続可能な地域社会のために貢献する資質や能力を育てることを目的とする。

- ①地域の自然に関する知識・理解
- ②自然と人々の暮らしの関係の理解
- ③豊かな自然を守っていきこうとする態度
- ④自然災害や防災についての知識・理解
- ⑤命を守るための知識と行動力
- ⑥地域社会における防災と協力
- ⑦自然と共存し、地域社会の発展のために貢献する資質と態度の育成

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域理解プロジェクト

- ①双六岳親子清掃登山②職場体験学習③ふるさと写真の撮影と発信

防災教育プロジェクト

- ① 命を守る訓練②家族防災ウィーク等の実施③防災講演会

上記を年間で学年または学校の行事に位置付け、全職員で取り組みを行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

各活動の終了時、および学期末・学年末に「PTA運営委員会」、「学校評議員会」、「たからの子どもを守る会」での評価

・親子清掃登山、地域の自然に関する講演会、防災講演会、防災訓練などについては、事後に感想を書くことで評価。・職場体験学習では、学んだことや感想をまとめて発表会を行う。また、各事業所から評価をいただいた。どれも高評価をいただき、今後も継続したい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・『見つめようふるさと、伝えよう私の好きな風景』カレンダーを全家庭に配布。学校だよりでESDに関わる情報やユネスコスクールとしての取り組みを発信。「PTA運営委員会」、「学校評議員の会」、「たからの子どもを守る会」での発表を行い、自然災害について正しく理解するとともに、家族や地域の人々と協力して防災に努めようとする態度や意識が高まった。また、地域のすばらしさを認識し、積極的に発信することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

PTAまたは保護者及び学校評議員会とのネットワークができた。また、たからの子どもを守る会という組織とのネットワークで持続可能な教育の基盤作りができてきた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

県内や市内のユネスコスクールとの合唱交流や授業交流をおこない、お互いに高め合いことができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

多忙化や働き方改革等や新学習指導要領、またはこれからの学校のための学校カリキュラムマネジメントを再構築するきっかけとなった。
持続可能な教育を行っていくためには、どの教員でもできる。（無理しなくてもできる）長くできる、欲張らない見通しがとても重要である。スリムでシャープに視点や生徒につけたい力を明確にすることで、業務改善と・意識改革で社会の刻々と変化するなかでも子どもと向き合う時間や寄り添う時間の確保のために活動を精選した。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

1) 地域理解プロジェクト

①双六岳親子清掃登山（3年生、夏休み、学校行事）

身近にある有名な山に登ることで、自然のすばらしさを体験する。また、登山道の清掃を行うことで、自然を守ろうとする気持ちと態度を育てる。

②職場体験学習（2年、5月、3日間）

地域の様々な事業所で職業体験を通して、働くことの意味を学ぶとともに、そこで働いている人々の思いを学ぶ。

③ふるさと写真の撮影と発信（全学年）

「見つめようふるさと、伝えよう私の好きな風景」と題して、季節ごとに地域の自然や暮らしを撮影して掲示する。また、カレンダーを作成して内外に発信する。

2) 防災教育プロジェクト

①命を守る訓練（5月、11月、1月）

11月には、地域の保育園、小学校と合同の訓練を行う。中学生が引き渡しのための名簿作成をするなど、災害時に備えて自分たちにできることを実践的に訓練する。

②家族防災ウィーク等の実施（10月）

防災アンケートをもとに家族で話し合い、災害に備えて準備しておく品物を確認したり、災害が起きた場合にどのように行動するとよいか話し合ったりする。

③防災講演会（10月、2月）

砂防や火山についての講演会を通して、正しい知識を身につけるとともに、命を守るための方法を学ぶ。